

陶器師

第1篇18章

神はご自身の聖さを少しも損なうことなく、不敬虔な者のすべての行為を用いて、彼らの心を従わせご自身の裁きを遂行させるようにされる。



人間の犯す一つの犯罪行為のうちには神の公義と人間の情欲と罪が同時に現れます。まったく同じ行動ですが、その内側で神と罪人が行おうとする行動の根拠は全く違っていています。神はご自身のよき御心に基づいて行動されますが、罪人は自分の情欲に基づいて行動しているのです。ですから、人がどのような行動をするかが重要なのではなく、その行動がどのような思いから生じているのかが重要になるのです。

粘土に砂や小石を混ぜて600度から900度ほどになった釜で焼いた器を陶器といいます。どのような模様、どのような用途の器に作るかを決めるのはただ陶器師の心に任されています。神の摂理を語るときこの陶器師よりもふさわしいたとはありません(イザヤ29:16)。「主よ、あなたは我らの父。わたしたちは粘土、あなたは陶工/わたしたちは皆、あなたの御手の業」(イザヤ64:8)。「焼き物師は同じ粘土から、一つを貴いことに用いる器に、一つを貴くないことに用いる器に造る権限があるのではないか」(ローマ9:21)。

神はただご自身のよき御心に従って義人と悪人を取り扱われます。そして彼らのすべての思いと行為をただ一人で導いておられるのです。ちょうど陶器師が粘土を使って思い通りの形にするようにです。これを「神の絶対的な主権」と呼びます。ここでは特に二つの質問に集中して考えてみたいと思います。第一は悪人が悪を行うとき神はその悪にどの程度関わっておられるのか、第二にそれにどのように関係しておられるかということです。

第一節 単純な許可ではない

第一の質問。サタンが人の心を誘惑して罪を犯させようと働くときに神はそれにどの程度関係しておられるのでしょうか？サタンがシェバ人とカルデヤ人をけしかけてヨブの所有物を奪わせました。また、サタンは風と火を降らせてヨブの家族を攻撃しました。このとき神はその出来事にどの程度に、またどのように関わっておられたのでしょうか？サタンはアハブ王をあざむかせるために預言者たちの口に偽りの霊を置きました。心の内にサタンが入り込んだイスカリオテのユダはイエスを大祭司たちに引き渡しました。アブシャロムは自分の淫乱の交わりによって王宮の寝床を汚しました。

このすべての出来事に神はどの程度、またどのように関係しておられるのでしょうか？答えに迷いますか？そのすべての出来事を神は摂理を持って導かれ、行われているとしたら神に罪をなすりつけることになるのでしょうか？そうでなければ神はただこれらの出来事を傍観しているだけなのでしょうか？それならば私たちは神をかかしのようになってしまうこととなります。このような苦境から抜け出すために人々が作り出した巧妙な答えは「許可した」という言葉です。神がサタンの願い通りに少しの間、悪を行われることを許可されたという意味です。このように言えば、すべての出来事を神が導いておられるという点も満足させることができますし、また神は悪しき事柄を計画されたり、行われたりされない方であるという点も満足させることができます。しかし、この言葉は人を欺くものでしかありません。それは私たちが信じてはならない言葉なのです。

神はこの世界のすべての出来事の中でそのいずれにも単純に許可されたことはありません。神はこの世界で起こるすべてのことを一つも漏れることなくただ自分の御心通りに導かれ、実行されるのです（詩 115：3）。ヨブを攻撃したサタンの働きも神がそのようにされることを求められたからです。ですから「わたしは裸で母の胎を出た。裸でそこに帰ろう。主は与え、主は奪う。主の御名はほめたたえられよ」（ヨブ 1：21）と語ったヨブの告白は正しいものと言えるのです。サタンがアハブ王を誘惑したのも神が求められたことでした（列王上 22：20、22）。

サタンにけしかけられたイスカリオテのユダがイエスを大祭司たちに売ったことも神のみ力とみ心が現れるように予定されたものだったのです（使徒 4：28）。それは神の定められた御心であり、すでに予言されたとおりのことが成就したものなのです（使徒 2：23、3：18）。アブシャロムが近親相姦で父の寝床を汚した悪も神がすでにそのようになるように摂理されていたものなのです（サム上 16：22）。

個人も家庭も国家もそこで起こるすべての出来事がみな神の意思と命令に従って生じるものであることを聖書は力強く証言しています。ですから、神の摂理のうちに「単純な許可」というカッコを付け加えることは非常に愚かなことなのです。神は陶器師であられません。この世界のすべての出来事、すべての事柄は彼のみ手の内で作られる陶器たちなので

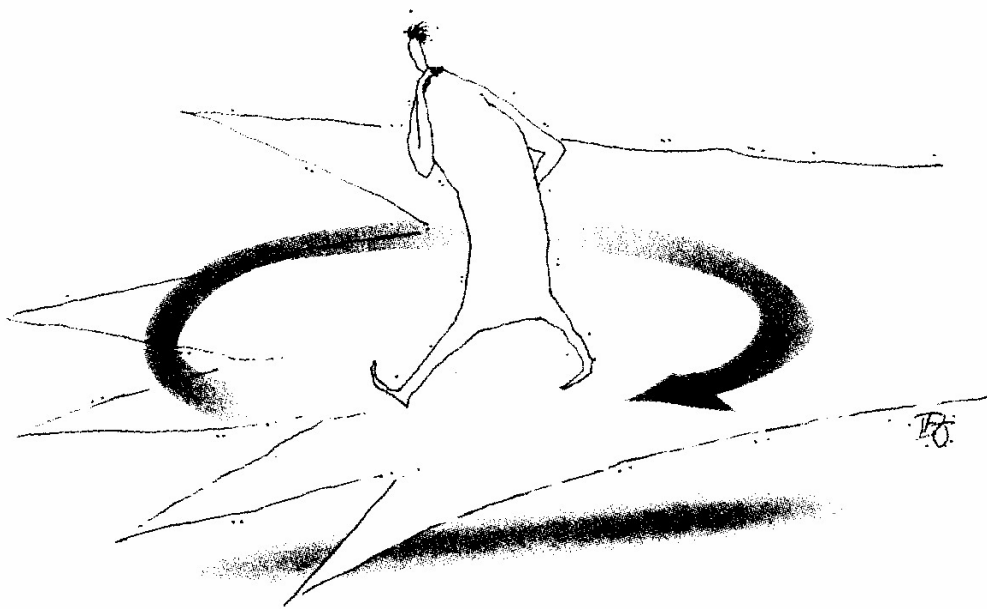
す。

第2節 神は人間が悪を行おうとするときそこにどのように関係しておられるのか？

それでは第二の質問について考えてみましょう。人がサタンにけしかけられて罪を犯すとき神はその人のうちにどのように関わっておられるのでしょうか？すでに前節でその関わり方は単純な許可ではないことを考察しました。ただし、ある一つ悪い行動のうちに神とサタンと人間のそれぞれがどのように働くのかについては第2編第2章、自由意志の問題を学ぶところでさらに詳しく取り上げます。しかし、ここでまず簡単に、確実に答えることができるのは神が善と悪のすべてを摂理され、導かれて、成就させておられるということです。

人間が悪を行おうとするとき神がその人のうちで働かれる方法は二通りに整理することができます。一つはその人のうちから神の恵みを取り上げられる方法です。なぜなら、元々罪人なる人間は生まれつき熱心に喜んで悪を行うようになっているからです。ですから神が人から恵みを取り上げられれば祭司たちから律法が失われ、長老たちから助言が失われてしまうのです（エゼ7：26）。神はすべての民を導かれることをやめられるなら、彼らは道を失い、自分が何をしていたかわからないまま（ヨブ12：24、詩107：40）に迷うことになるのです。

しかし、もうひとつの方法があります。神が人間の邪悪な心をさらに悪くされて、さらに暗くさせるというものです（イザヤ29：14、ローマ1：28、出エジ14：17）。神は直接、サタンを使って人間の心を暗くさせ、さらにかたくなにされるのです（出エジ4：21、ヨ



シユア 11 : 20、申命 2 : 30、詩 105 : 25、イザヤ 10 : 6、サム上 16 : 14)。サタンが信仰のない者たちの心を惑わせると聖書は語っていますが(コリ後 4 : 4)、そのサタンの人を惑わす働きは、神ご自身から出ているものなのです(テサ後 2 : 21)。サタンでも、罪人でも、本来生まれつき悪を行うことを好みますが、神は摂理された御心に従ってそれをとどめたり、許されたりすることでさらに悪を行うようにされるのです。

それで人が悪を行おうとするときそれは神がどうすることもできずにただ許可されているわけではありません。神は積極的にそのすべての悪を裁きの道具として用いられ、またそれを持ちてご自身の善き計画を成就されるのです。神は陶器師であられます。善き器でも、悪しき器でもみなその御手によって作りだされる陶器に過ぎないのです。

第3節 神の意思はただ一つである。

神の意思はいくつもあるのだろうか? 少なくない人々がこの問題で苦しんでいます。なぜならば、神がまるで善なる意思を放棄されて、途中で御心を変えられたかのような誤解をするためです。善を求められる神がなぜ、同時に悪を求められるのか? ヨブを愛する神がなぜヨブをそのように攻撃されたのか? イエスを殺した者たちを怒られる神が、なぜ同時にイエスの死を求められたのか? イスラエルの繁栄を求められた神がなぜ、同時にイスラエルに敵が起こることを(列王上 11 : 23、12 : 15)望まれたのでしょうか? 人々はこのような質問への答えを見出すことができずに苦しんでいます。それで神の御心には矛盾があったり、変化があったり、いくつかの御心があると言ったでたらめを語るのです。しかし、神の御心はただ一つです。ただ弱い私たちの眼にはそのように見えるだけなのです。

神はサタンのさそいのためにそこでヨブに試練を与えることを許されたものではありません。その苦難は最初から摂理されていた神の慰めの鞭だったのです。ヨブも信仰でその出来事を受け入れました(ヨブ 1 : 21、42 : 1~5)。イエス・キリストの死も神が最初から摂理されたものなのです。もし、そうでなかったらならば私たちの救いはどこから来たものになるのでしょうか? サタンから来たのでしょうか? そうでなければイスカリオテのユダから来たのでしょうか? ですからルカは記録しています。ヘロデとピラトは神がその権能と計画を成就させるために摂理されたところを行うために共謀したのだと(使徒 4 : 28)。

神は平和をもたらし、災いをも創造されます(イザヤ 45 : 7)。この世界に起こるどのような災難も神の許しがなければ、何一つ起こらないと言われていきます(アモス 3 : 6)。善と悪、この世界のすべてのことが神のただ一つの御心のうちに行われているのです。ここには矛盾もなく変化もありません。神は陶器師であって、しかも完璧な陶器師です。最初から計画されたその通りに器を作られ、途中で変更したり、失敗して放棄したりすることは絶対にありません。完璧な陶器師なのです。

第 4 節 神がご自身の目的を成就するため不敬虔な者たちの悪しき行為を用いられるときにも全く神は非難されることはありません。

神が主権を持つ陶器師であるとするならばある人はこのような誤解します。「それならば世界で起こるすべての悪も神が創られたものではないか?」「そうだとすれば、罪を犯す人々の責任はすべて神が負うべきものではないか?」。しかし、このような誤解は神の御心と神のみ教えを混同するところからくるものなのです。聖書はその二つの相違点をはっきりと教えています。

例を一つあげて説明してみましょう。アブシャロムは父の側女たちを汚しました(サム下 16:22)。もちろん、神がこのことを命じられたのです(サム下 12:11、12)。神の御心が実行されたのです。しかしアブシャロムがしっかりと従わなければならなかったのはその秘められた御心ではなく、明らかに表された御心、つまり神のみ教えであったのです。近親相姦を禁じる戒めに彼は従うべきでした(レビ 20:11、12)。

この事件をダビデはそれが神の自分への鞭だと受け入れました。なぜでしょうか?神のみ教えを犯してしまった自分の行動をよく知っていたからです(サム下 16:10、11)。しかし、アブシャロムは自分の情欲に従って神の聖なる教えを破棄してしまったのです。近親相姦の罪を犯してしまったのです。それで神の教えを破ったアブシャロムは裁きを受けなければならなくなりましたが、同時に彼は神がダビデを裁かれるために用いられた懲らしめの道具でもあったのです。

一つの行動の中にこのように神の公義と人間の情欲と罪が同時に現れたのです。全く同じ行動ですが、そのうちで神と罪人が行動する根拠は全く違っています。神は善き御心に基づいて行動されますが、罪人は自分の情欲に基づいて行動するのです。ですから、人がどのような行動をするかが重要なわけではありません。その行動がどのような思いから生じているかが重要なことなのです。イエスの十字架の上の死は神が求められたものでしたが、ヘロデと大祭司も求めていたものでした。しかし、行動の根拠は全く違います。神は義しさから、ヘロデたちは悪からそれを行ったのです。

このようにこの世界で起こるどのような凶悪事件でも神は常に義しく、悪を行なう人間は常に悪なのです。完璧な陶器師は悪い粘土でもよい粘土でもかかわりなくそれをみな用いて、自分が作りたいたいと思っている最上の器を作られる方なのではないでしょうか?もとから質の悪い粘土が自分の悪さを陶器師の責任することができるのでしょうか?完璧な陶器師はそのような悪い粘土も使用して最上の器とされる方なのです。

まとめ

神は完璧な陶器師です。彼は常にご自分の喜ばれる善き御心に従って最上の陶器を作られます。この世界で起こるすべてのことを導き、治めておられるのです。神の摂理を知れ

ば知るほど神の偉大さを知るようにされ、私たちの幸いも知るようされます。そして私たちは順境のときには感謝をささげ、逆境のときには悔い改めるべきところを悔い改めて、悟るべきところを悟り、そして忍耐するようされるのです。